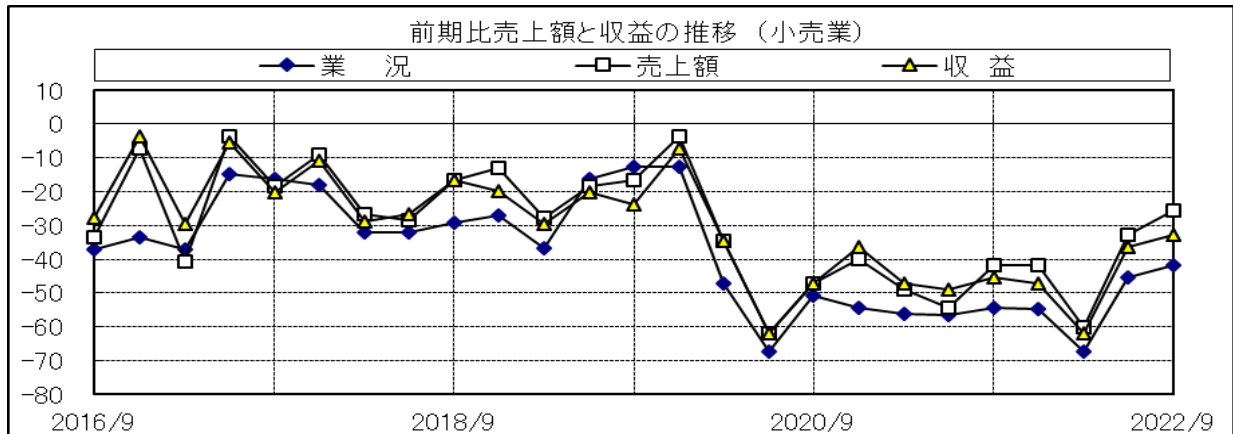


## 小売業 55企業（回答率 100%）の調査結果です

### □ 景況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業況	-67.3	-45.4	-41.9	-41.8
売上額	-60.0	-32.7	-25.5	-25.8
収益	-61.8	-36.4	-32.8	-38.2

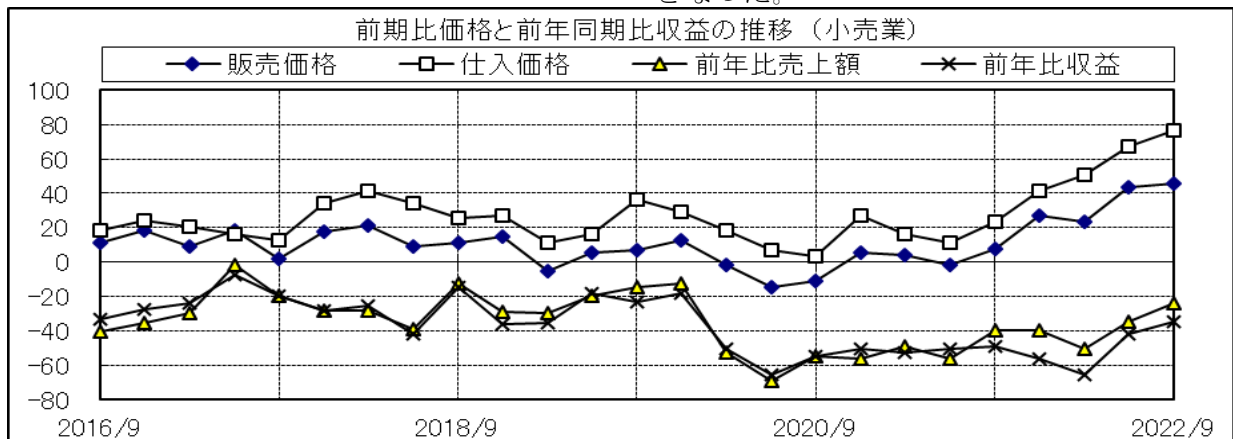
今期の業況判断 D. I. は△41.9 で、前期比 3.5 ポイント上昇した。前年(△54.5)比 12.6 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、えりもが最も高く、次に、様似、三石、静内、浦河と続き、広尾が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は△25.5 で、前期比 7.2 ポイント上昇した。収益判断 D. I. は△32.8 で、前期比 3.6 ポイント上昇した。



### □ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
販売価格	23.7	43.7	45.5	40.0
仕入価格	51.0	67.3	76.3	61.9

販売価格判断 D. I. は 45.5 で、前期比 1.8 ポイント上昇し、前年(7.3)比 38.2 ポイント上昇した。仕入価格判断 D. I. は 76.3 で前期比 9.0 ポイント上昇し、前年(23.7)比 52.6 ポイント上昇した。業種別の販売価格は、衣料は下降、食品は上昇、家電は横這いとなった。仕入価格は、衣料、食料は上昇し、家電は横這いとなった。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-16.4	-9.1	-5.6	-1.8
人手状況	-16.4	-16.4	-19.9	-19.9

残業時間判断 D. I. は△5.6 で、前期比 3.5 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は△19.9 で、前期比 3.5 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

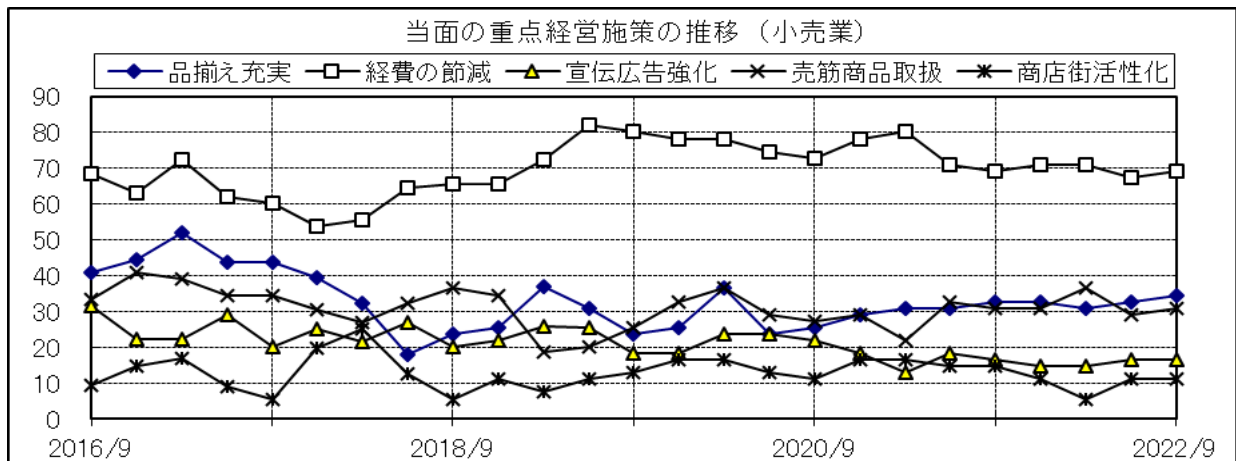
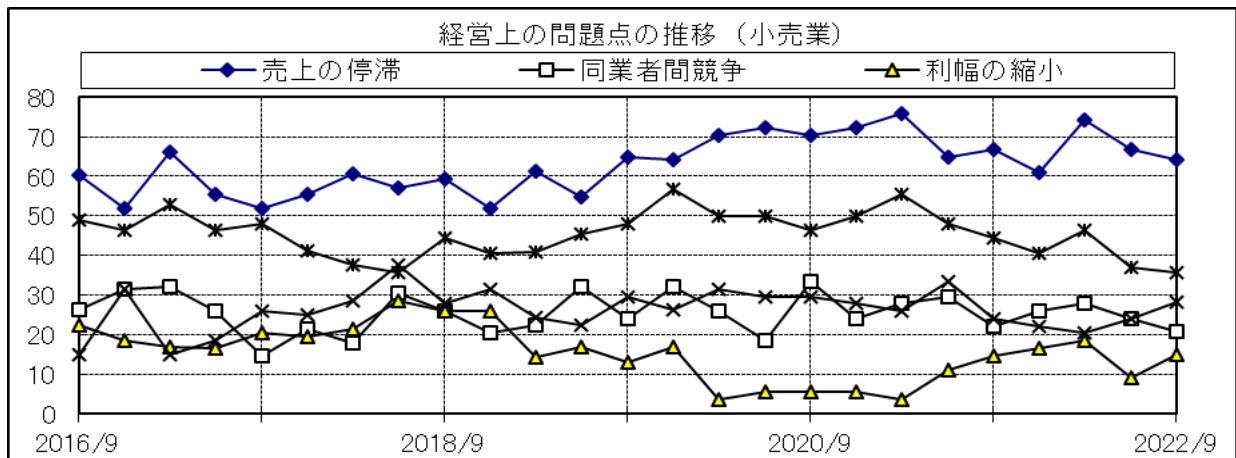
## □ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 12.7$ で、前期( $\Delta 10.9$ )比1.8ポイント下降した。  
設備実施企業割合は3.6で、前期(9.1)比5.5ポイント下降した。設備投資は、前期5社に対し2社の実施となった。来期の設備投資は、3社の予定となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が64.2%と最も多く、次に「商圈人口減少」35.8%、「値上げ要請」30.2%、「大型店競合」28.3%、「同業者競合」20.8%、「利幅縮小」15.1%、「天候不順」9.4%、「人手不足」・「取引先減少」が7.5%、「販売商品不足」・「地場産業衰退」が5.7%、「人件費増加」・「商店街集客力低下」が3.8%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が69.1%と最も多く、次に「品揃え改善」34.5%、「売れ筋商品取扱い」30.9%、「仕入先開拓選別」20.0%、「宣伝広告強化」16.4%、「商店街活性化」10.9%、「人材確保」9.1%、「機械化推進」3.6%となった。



## □ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 41.8$ と、今期比0.1ポイントの上昇を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 25.8$ と、今期比0.3ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 38.2$ と、今期比5.4ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D. I. は40.0と、今期比5.5ポイントの下降を見通している。

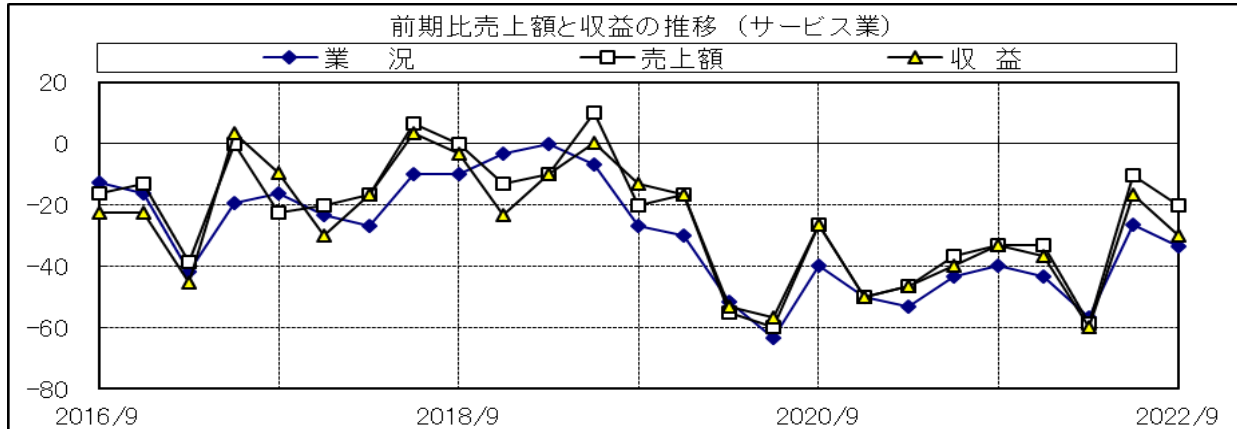
予想仕入価格判断D. I. は61.9と、今期比14.4ポイントの下降を見通している。

## サービス業 30 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

### □ 概 況

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
業 況	-56.7	-26.6	-33.4	-36.7
売上額	-58.7	-10.4	-20.1	-16.6
収 益	-60.0	-16.6	-30.0	-20.0

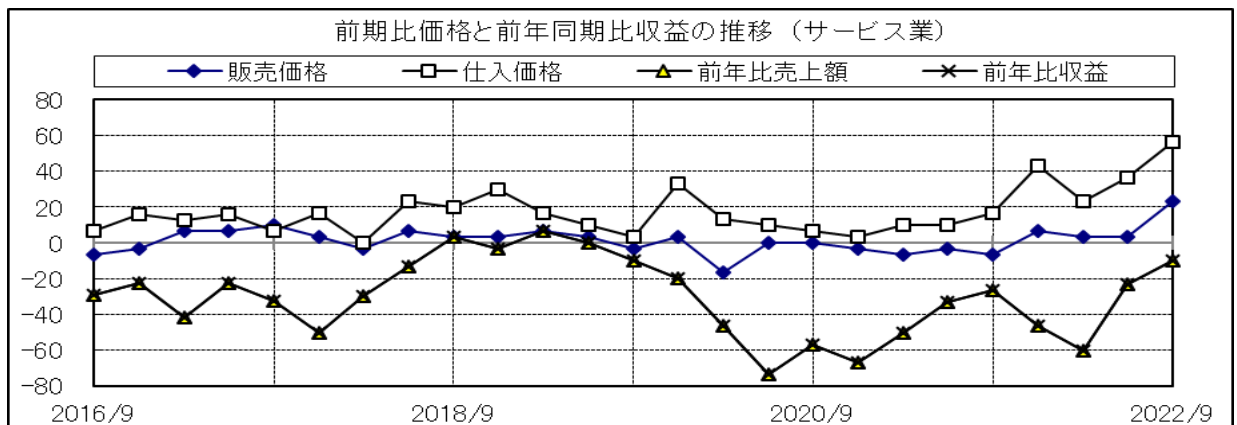
今期の業況判断 D. I. は  $\Delta 33.4$  で、前期比 6.8 ポイント下降。前年 ( $\Delta 40.0$ ) 比 6.6 ポイント上昇した。地区別の D. I. は高い順に、静内・三石が同率で最も高く、次に類似、えりも、広尾と続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D. I. は  $\Delta 20.1$  で、前期比 9.7 ポイント下降した。収益判断 D. I. は  $\Delta 30.0$  で、前期比 13.4 ポイント下降した。



### □ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
料金価格	3.3	3.3	23.3	16.6
材料価格	23.4	36.7	56.7	46.7

料金価格判断 D. I. は 23.3 で、前期比 20.0 ポイント上昇した。前年 ( $\Delta 6.6$ ) 比 29.9 ポイント上昇した。材料価格判断 D. I. は 56.7 で、前期比 20.0 ポイント上昇した。前年 (16.7) 比 40.0 ポイント上昇した。業種別の料金価格は、旅館業は横這い、洗濯理美容業、自動車整備業は上昇。材料価格は、旅館業、洗濯理美容業は上昇、自動車整備業は横這となっている。



### □ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3月 期実績	4～6月 期実績	7～9月 期実績	10～12月 期見通し
残業時間	-20.7	-13.3	-6.9	-10.0
人手状況	-23.3	-20.0	-20.0	-20.0

残業時間判断 D. I. は  $\Delta 6.9$  で、前期比 6.4 ポイント上昇し、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D. I. は  $\Delta 20.0$  で、前期と同水準となり、人手不足感に変化は無かった。

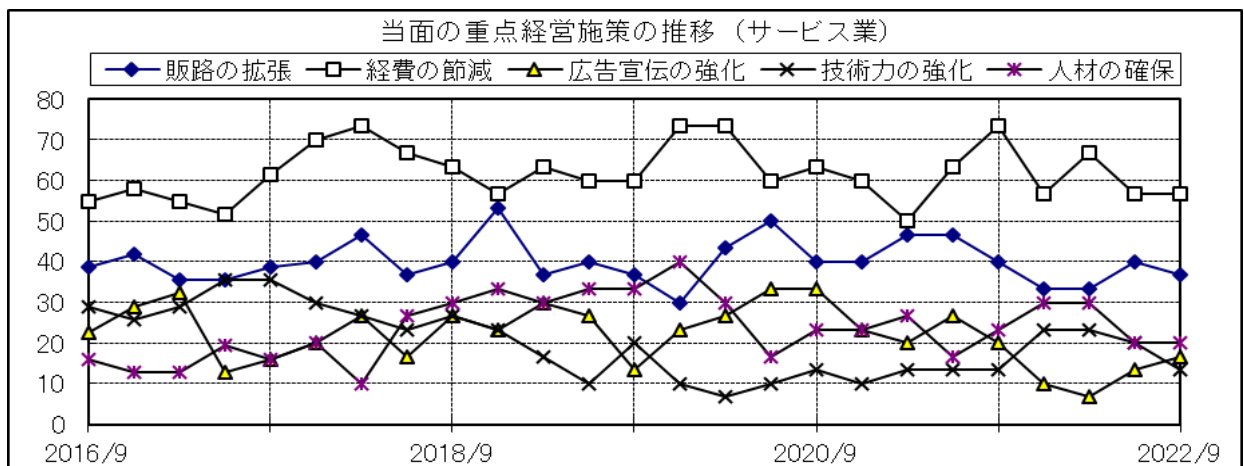
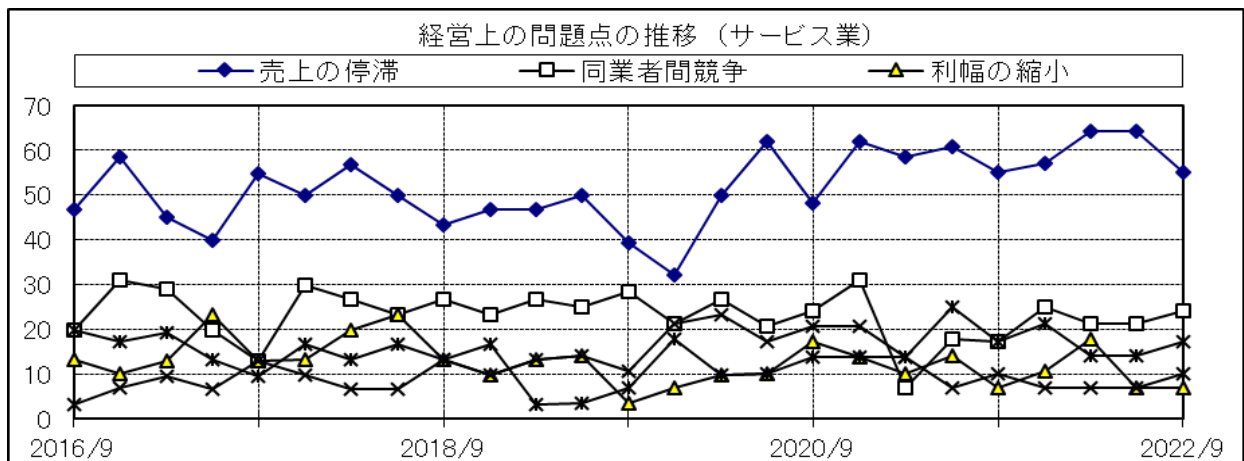
## □ 設備投資の動き

設備投資の充足感を示すD. I. は $\Delta 10.0$ で、前期( $\Delta 3.3$ )比6.7ポイント下降した。  
設備投資実施企業割合は6.7で、前期(10.0)比3.3ポイント下降した。設備投資は、前期3社に対し、2社の実施となった。来期の設備投資は、3社の予定となっている。

## □ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が55.2%と最も多く、次に「材料価格上昇」48.3%、「商圏人口減少」27.6%、「人手不足」・「同業者競合」が24.1%、「地場産業衰退」17.2%、「人件費増加」10.3%、「大手企業競合」・「利幅縮小」・「取引先減少」・「店舗設備老朽化」が6.9%、「値下げ要請」・「諸経費増加」・「技術力不足」が3.4%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が56.7%と最も多く、次に「販路拡大」36.7%、「人材確保」20.0%、「宣伝広告強化」16.7%、「技術力強化」13.3%、「連携先確保」・「労働条件改善」が10.0%となっている。



## □ 来期の見通し

来期の予想業況判断D. I. は $\Delta 36.7$ と、今期比3.3ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D. I. は $\Delta 16.6$ と、今期比3.5ポイントの上昇を見通している。

予想収益判断D. I. は $\Delta 20.0$ と、今期比10.0ポイントの上昇を見通している。

予想料金価格判断D. I. は16.6と、今期比6.7ポイントの下降を見通している。

予想材料価格判断D. I. は46.7と、今期比10.0ポイントの下降を見通している。